学位論文審査の要旨

学位申請者	廣瀬　達子 2018年3月単位修得退学		論文題目	無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT：Non-invasive prenatal testing）受検後に否定的感情を抱いた妊婦から見る出生前遺伝カウンセリングのより良いあり方の検討
審査委員	主　　査:	三宅　秀彦　教　授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否　：　否
	副　　査:	由良　敬　教　授		「否」の場合の理由
	副　　査:	近藤　るみ　准教授		□ ア．当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	石丸　径一郎　准教授		□ イ．著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	佐々木　元子　助　教		■ ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博　士	（学術）		□ エ．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
（英語名）	（Ph. D. in Genetic counseling）			□ オ．特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本学位論文は、無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT：Non-invasive prenatal testing）の社会における運用について検討された論文である。海外では出生前検査の情報を全妊婦に一律に提供している国がある一方で、日本においては1999年の厚生科学審議会の見解発出以来、出生前診断に関する情報は積極的に提供されず、受検を希望する妊婦やパートナーは自ら情報収集をする必要があった。しかし、インターネットなどで得られる情報には正確性の問題があり、不正確な情報を正しい情報より先に得ることにより、情報の修正が難しくなるといった問題が生じる。

本学位論文では、1999年の見解とは異なり、妊婦の年齢に関わらず妊娠初期の時点で出生前遺伝学的検査の情報を書面にて全妊婦に情報提供し、受検希望者に遺伝カウンセリング後に検査を行なっている昭和大学病院産婦人科においてなされた研究をまとめたものである。まず、昭和大学病院における出生前診断全体における受診傾向を明らかにした。その上で、昭和大学を初めて受診してNIPTを受けたカップルにおけるストレスについて検討し、妊婦群は、パートナー群よりも遺伝カウンセリング前のストレス点数が有意に高く、遺伝カウンセリング後の安心感の増加率はパートナー群よりも有意に低かった。パートナー群は検査の情報収集に受動的であり、妊娠自体の実感が少ないと考えられ、遺伝カウンセリングで検査などの情報を得られたことにより安心感につながったと推察された。このような遺伝カウンセリング後のストレスが継続することもあるため、NIPT陰性結果であった女性を対象に、遺伝カウンセリングから1年後のアンケート調査を行い、受検後に後悔や罪悪感など否定的感情を抱いた割合とその女性の背景について調査した。その結果、否定的感情をもった群では検査前にストレスや不安を有意に強く感じていたことを明らかにし、遺伝カウンセリングの重要性が示された。本研究を通して、妊娠初期から、妊婦やパートナーに対して出生前遺伝学的検査の正確な情報提供を平等に行い、希望者への遺伝カウンセリングを徹底することで、一部の不正確な情報に振り回されることなく、自律的な意思決定が可能となり、受検への後悔が残りにくくなることが期待される。

本研究の内容は、筆頭著者としてそれぞれ独立した論文として発表された。第2章は、査読付き和文誌（女性心身医学）に、第3章は、査読付き英文誌（Journal of Human Genetics）に原著論文として、それぞれ掲載されている。

学位論文の審査にあたって、分子生物学、臨床心理学、生命情報学、臨床遺伝学、遺伝カウンセリング学に精通した審査委員により構成される審査委員会を設置した。第1回審査委員会において論文内容は十分であるとされたが、論文題目を含めて構成および一部の表記に対して修正意見が出され、第2回審査委員会にさらに追加の修正意見があった。第3回審査委員会では、適切に修正がなされていることが確認された。2021年8月25日に開催された公開発表会では、全ての質問に対して的確な回答がなされた。

審査委員会は、本論文、出生前診断の実施において事前の情報提供の重要性を見いだし、論文提出後に発出された厚生労働省のNIPT等の出生前検査に関する専門委員会の見解と同様の結論が出されており、その先見性が認められた。したがって、遺伝医療の実践のみならず、社会における医療提供体制の構築においても重要な研究と考え、かつ学術的にも高いレベルにあることも認められた。

上記の理由より、本論文が博士論文として十分な内容であると評価した。

以上より、本審査委員会は、本論文をお茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の博士（学術）（Ph. D. in Genetic Counseling）の学位授与に相応しいと判断した。